

真宗まめ知識

清め塩

葬儀のときの「清め塩」について、聞かれることがあります。仏教の立場から申せば不要のものです。仏教の教えとは別に習俗としてつたえられてきたものです。葬式後の清め塩や、相撲で蒔く清め塩は、多くの日本人が昔から海の側で生活をしていた為に、汚れたことが起こるたび、海辺で潮垢離（シオゴリ）を取って清めていた事から始まったものと考えられます。

つまり、穢れを祓（はら）うという役割を「清め塩」が果たしているものです。このほか、地域によつて、出棺の時、故人（こじん）が常用していたお茶碗を割る。家を出る時、棺をぐるぐる三回まわす。火葬場への行きと帰りを同じ道を通らない。など、様々な習俗があります。

しかし、このような死の受け止め方は、死を「穢（けが）れたもの」と見る事によつて、結果的に生前親しくしてきた人を、亡くなるとたんに「穢れたもの」として、心ならずも粗末に扱うことにつながります。

なお、料理屋とかで店先に盛つてある塩（盛り塩）はお清めとは関係なく、中国の皇帝の愛人が、



自分のところに皇帝を呼びたいのに、牛が好きな塩を盛って、牛車を止めたという故事から来たもので、人を呼ぶ意味の縁起かつぎとなっているものです。

韓国仏教の研修旅行に参加して

西北五地区仏教会主催の「韓国仏教に触れる研修旅行」に事務局を担当していることもあつて、坊守とともに参加させてもらいました。十月九日から十二日までの日程で釜山・慶州・ソウルを旅してまいりました。



韓国は戦後キリスト教が大躍進し、仏教は廃れてしまったと思っていました。慶州の佛国寺で熱心にお参りしている若者。山門の前で深々と合掌礼拝している姿に感動を覚えました。

また、ソウルでは町の中心街にある曹溪寺に十一日にお参りさせていだいたところ、本堂の中はもちろん、本堂の裏側や、境内にゴザを敷いて熱心に五体投地の礼拝（写真）をしておられ、大変驚いてみると、係りの人から毎月の定例法要だとお聞きしました。

●研修旅行の直前の十月五日に昭和三十三年に二十九歳で亡くなった先の坊守の五十回忌法要を勤めさせていただきました。いつも、は呼ばれる立場から反対の立場で準備に追われ、ご法事を営むことの大変さを改めて身をもって体験させていただきました。（住職）



お知らせ

◆報恩講（沿川講中当番）十一月二十六日（月）

十一月二十八日（水）

◆除夜の鐘（修正会後、お蕎麦が振舞われます。）一月一日 午前〇時十五分前から

◆初御講 二月二十八日（木）午前十時から

◆永代経法要（沿川講中当番）三月二十六日（水）

三月二十八日（金）

※これまでに永代経をお申し込みになられた方々の法名を本堂に安置しお勤めいたします。

※新たにお申し込みの方は、永代経志Ⅱ三万円を添えてお申し込みください。お紐解きの読経・焼香のご案内があります。これまでにお申し込みになられた方も三日間ともぜひお参りください。

正休寺同朋会のご案内

十二月十一日（火）

午後一時から 定例会

平成二十年

一月八日（火）

午後一時から 定例会

二月十二日（火）

午後一時から 定例会

※同朋会は何時からでも入会できます。年会費二千円です。

第3号

平成19年11月1日発行
板柳町大字板柳字土井241
TEL.0172-73-2016

正休寺だより



宗祖親鸞聖人御遠忌法要
四年後に本山で厳修

上の写真は、大正五年九月二十五日に執行された正休寺における「宗祖親鸞聖人の六百五十回忌法要」のときの模様です。お寺の記録によると、安田才助氏が「営主」となって、祖父の五十回忌追弔会と兼ねて行われたものであることが窺われます。

本山では、四年後の平成二十三年に、宗祖親鸞聖人の七百五十回御遠忌をお迎えいたします。その御遠忌の特別記念事業として、明治の再建以来百余年を経た東本願寺両堂等の御修復という歴史的事業に取り組んでおります。正休寺では昨年度で御遠忌の特別募財を完納させていただきました。皆様のご協力に対し厚く御礼申し上げます。

さて現在の正休寺の本堂は、明治二十四年に焼失し、その後再建されたものであります。その頃、本山の両堂は、元治一（一八六四）年の蛤御門の変によつて焼失し、明治期における先達の総力を結集して、明治二十八年によく再建され、明治四十四年に御遠忌をお迎えいたしました。

そういう時代の中、このような形で大正五年に御遠忌が勤まったということは、大変なご苦労であったと思われます。今後、正休寺においても本山の御遠忌の後、お寺としての七百五十回忌のご法要をお勤めいたします。



去る六月十二日、教区公開講座「仏教と現代」講座が、正休寺を会場に開催され、西北五地区のお寺の御門徒を中心に、当日一〇〇名を越える参加者があった。

講師の田代俊孝師は名古屋の同朋大学の教授をされ真宗学を教えておられるが、念仏の教えと生活は切り離してはありえないという立場から、医療関係者と連携をし、終末医療や臓器移植などの問題に取り組みでおられる。当日は、日頃の取り組みを通した具体例をあげながら、「脳死・臓器移植を考える―心と心のつながりの中で―」のテーマのもと熱心な講話がされた。

「教区公開講座」開催

平成19年度定時役員総会を開催

去る9月27日正休寺役員総会が開催されました。

会議では、総代長の安田義明氏が議長となって進行されました。はじめ役員の変更について各地区の世話方の移動が報告され、続いて小阿弥地区の総代である成田正明氏の辞任に伴う後任に長内早苗氏が就任することが承認されました。その後、退任者には感謝状、新任者にはそれぞれに委嘱状が手渡されました。続いて、「平成18年度決算、平成19年度予算（案）、特別会計の収支報告の審議に入り原案通り可決承認されました。

毎月の御講に続いて 十一月は報恩講執行

七月の御講は、畑岡講中の当番で、八月は六郷講中でそれぞれ勤められた。特に八月の御講では板柳で呉服屋を営む佐々木一仁氏にエレクトーン演奏をしていただいた。自身で作曲された曲目に解説を交え、その演奏に参詣者一同聞き入っていた【写真】。



九月と十月の御講はお休みで、十一月二十六日（月）から二十八日（水）の三日間、正休寺報恩講が勤まります。今年の御齋の当番は沿川講中の皆さんです。また、講師には初めての先生をお願いいたしました。北海道の菊地真一さんです。

報恩講は真宗門徒にとって最も大切なご法要です。日程は次のようになっていますので、よろしくご参詣くださいますようご案内申し上げます。

十一月二十六日	
午前十時	日中勤行
引続き法話	正午まで
午後一時	お逮夜勤行
引続き法話	午後三時まで
十一月二十七日	
午前十時	日中勤行
引続き法話	正午まで
午後一時	お逮夜勤行
引続き法話	午後三時まで
午後六時	お初夜勤行御伝鈔
引続き法話	午後八時まで
十一月二十八日	
午前九時	御満座お待受法話
午前十時	御満座法要
引続き法話	十二時まで
正午	御齋

同朋会「日帰り旅行」

同朋会の恒例の日帰り旅行が、去る六月十六日行われ、四十三人が参加した。今回の目的地は秋田県の湯瀬温泉の姫の湯ホテルで、途中、小坂町の康楽館での記念写



真や鹿角市十和田毛馬内の常照寺（熊谷寛住職）の参拝をした。

常照寺では、住職・坊守・筆頭総代のお出迎えがあり、茶菓の接待の後、住職からお寺の歴史などをご挨拶の中で教えていただいた。その中で境内地に何故「虚空菩薩」のお堂があるのかについて教えていただいた。それは、かつて明治の廃仏毀釈の中、近くの月山神社のご神体であった「虚空菩薩」を破棄したためであるとのことであった。破棄されたその像が質屋の店頭に並んでいたのを見かねた方が引き取り、現在の地にお堂を建てお祭りしているとのことであった。

では、その後の神社のご神体はどうなっているのかをお尋ねすると、「鏡」になったようだとのこと。ご本尊・ご神体について考えさせられる研修になりました。